



このコーナーでは、職員の趣味や特技を紹介します。今号は宮本病院長補佐（医歯薬連携担当）に寄稿いただきました。

寝床の中の読書

私の読書はもっぱら寝床の中です。当然、難しい本は読みません。さらに、腕が痛くなるので、ハードカバーの大判の本も読みません。安い文庫本ばかりです。そして、適度な時間で眠らせてくれる本が一番好きです。しかし、最近、困った本「竹村公太郎著：日本史の謎は「地形」で解ける（PHP文庫）」に会いました。何が困ったかという、なかなか眠らせてくれなかったのです。

私は歴史が好きで、NHKの「歴史秘話ヒストリア」や大河ドラマは欠かさず見ています。ハワイの学会でもホテルで「軍師 官兵衛」を見ていて医局員に驚かれました。歴史上の人物が、人間同士の葛藤の中で、どのように頭を使って困難を乗り越え、はたまた失敗したのかを考えるのが面白いのです。たとえば、なぜ織田信長は比叡山を焼き討ちしたのか？信長は墮落した僧侶たちに我慢ならなかった、僧侶たちが浅井家に加担した、寺社の商業利権を取り上げるためと一般には言われています。これらは宗教的、経済的・軍事的な損得で歴史が動くという考えです。私もこの本を読むまでは、その通りだと思っていました。ところが、本書は地理や気象、インフラの観点から歴史の謎を推理小説のように解き明かします。

源頼朝はなぜ鎌倉に幕府を開いたのか？平家が朝廷や公家と癒着して墮落したのをみて京都から離れたかった、平家の残党に対する守りを鎌倉で固める必要があったなどが一般的な説明です。しかし、当時の日本の中心は何と言っても京都で、日本を統治するには鎌倉はあまりに遠すぎます。新幹線も電話もメールもない時代ですから。さらに、これまでのどの時代の首都と比べても極端に狭いのです。実は、頼朝は京都が恐かったのです。明るく温暖な伊豆半島で青春時代を過ごした健康な湘南ボーイは、不衛生で疫病が蔓延した京都を恐れて鎌倉に引き籠もったのです。なぜ、京都が不衛生だったのか、なぜ鎌倉を選んだのかを、著者は地形やインフラの観点から説明し、独自の説を展開しています。現在とは全く違うスラム街のような京都が目に見えます。著者の説得力のある論拠に、目から鱗が落ちる思いがします。

信長も比叡山の地形が恐かったのです。元寇は台風で失敗したのではなく日本の地質と風土に敗北したのです。著者の説が全て正しい訳ではありませんが、こんな考え方があったのかということに興味します。この本は続編も含めて図書館にあります。ぜひ、読んでみて下さい。

病院長補佐（医歯薬連携担当） 宮本 洋二



図書館・推薦図書コーナー

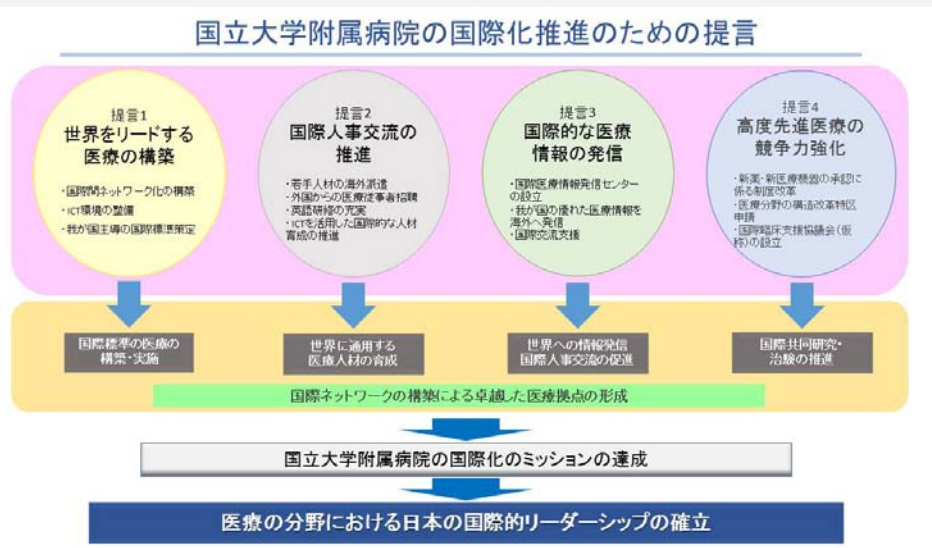
このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

病院の国際交流事業について

平成26年11月より国際交流担当の病院長補佐を拝命しました呼吸器・膠原病内科の西岡です。この病院長補佐ポストは大学病院の国際化の動きに呼応して新たに設けられたポストになります。平成25年に文部科学省から発表された国立大学改革プランの重要なキーワードの一つが「グローバル化」です。国立大学附属病院長会議においても、平成24年3月、国際化推進のための4つの提言が出されました。提言1「世界をリードする医療の構築」、提言2「国際人事交流の推進」、提言3「国際的な医療情報の発信」、提言4「高度先進医療の競争力強化」の4提言です。同年11月、将来像実現化ワーキンググループ（WG）において、国際化プロジェクトチーム（PT）に九州大学、北海道大学、群馬大学、千葉大学、岐阜大学、三重大学、広島大学、徳島大学、鹿児島大学の9大学が選出されました。平成25年10月には常置委員会の国際化担当（九州大学）の下に国際化推進WGが設置され、その後国際化PT／国際化推進WG合同会議として、平成26年12月までに9回の国際化PT会議、5回の国際化推進WG会議が開催されています。私は昨年9月からこれらの会議に出席させていただき、各大学病院の担当者と国際化に向けた取り組みについて議論を交わしています。既に多くの大学病院で、外国人患者受け入れに向けた組織整備と外国語の病院案内作成や院内表示の整備、国際的情報発信、海外の大学病院や基幹病院とのICTを活用した臨床テレカンファレンスの実施、国際人事交流による相互の医療人育成の試みが始まっています。

一方、徳島大学病院の国際交流事業に目を向けると、1984年から続く眼科学分野の内藤 毅特任教授（現国際センター国際協力部門）によるトリブバン大学（ネパール）への医療支援や歯科を中心としたムハマディア大学（インドネシア）あるいはモンゴル国立医科大学との交流事業など全国的にも誇れる事業があり、各診療科単位でみると数多くの積極的取り組みが行われています。今後さらに事業を発展させていくためには、病院単位で戦略的に国際交流事業に取り組み、その成果を戦略的に発信していくための院内の組織や設備、HPの整備が急務と思われます。微力ながら病院の国際化に貢献できるよう努めさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします

病院長補佐（国際交流担当） 西岡 安彦



NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



院内阿波踊りを開催しました！

徳島市の阿波踊り1日目の8月12日（水）、9月に開院する外来診療棟のアメニティテラスで毎年恒例の院内阿波踊りが開催されました。

三徳連（呼吸器・膠原病内科）、あたま連（精神科神経科）、栄養学科学生、看護部らの連が次々と登場すると、待ち受けた患者さんやご家族は三味線や太鼓の軽快なリズムに合わせ、腕を振ってみたり、手拍子や掛け声をかけるなど、阿波踊りの雰囲気を楽しんでいました。踊りが終わると会場では大きな拍手が起きました。



循環器内科

第7回四国循環器セミナー（ブートキャンプ）

循環器内科では、香川大学、愛媛大学、高知大学、および、徳島赤十字病院、KKR高松病院、愛媛県立中央病院、近森病院の各循環器内科と協力して、研修医のための循環器セミナーを開催しています。

今回は徳島大学が当番幹事で、7月11日-12日の二日間、新居浜リーガロイヤルホテルで行い、研修医と医学生が68人、指導医が39人参加しました。高価なシミュレーターや、心エコー装置を実際に使った実習と、4つのレクチャーを行いました。今年の特別講演は徳島大学の赤池先生による「循環器内科におけるナラティブ・アプローチのすすめ」で、感動を与えてくれました。

参加した研修医、学生が循環器内科の雰囲気を察する良い機会になったと思います。



「子供阿波踊りのつどい」を開催しました！

栄養部

8月5日（水）東病棟玄関前広場にて、栄養部の主催で、恒例の「子供阿波踊りのつどい」を開催しました。

栄養学連の協力を得て、入院中の患者さんをはじめ、あゆみ保育園の園児たちと一足早い阿波踊りを楽しみました。栄養学連の力強い演舞や、楽しそうに踊る子供たちの姿を見て、会場全体が活気と笑顔にあふれていました。

ほんのひとときでしたが、入院患者さん、園児や職員のふれあいの場となれるよう今後も続けていきたいと思っています。来年もまた皆さんの笑顔を楽しみにしています。



夏期打ち上げ

口腔内科

7月28日グランドパレス徳島で毎年恒例の夏期ビアガーデン打ち上げ会を開催しました。

おいしいビールを飲みながら歯科研修医や歯学部6年生も参加しおおいに盛り上がりしました。



BBQをしました！

救急集中治療部

5月30日鳴門のうちのうみ公園にて「恒例！救急集中治療部BBQ大会」を開催しました。西村教授をはじめ、医局員や看護師、臨床工学技士とその家族総勢40名の大規模なBBQ大会となりました。

青い空、素晴らしい景色、そして肉！精神的・身体的にもリフレッシュできました。

TOPIC

徳島人工呼吸器セミナー

第7回 ワークショップ

日時：平成27年10月24日（土）9:30開始予定

場所：スキルスラボ

対象：医療従事者

（医師・看護師・臨床工学技士など）

連絡先：救急集中治療部 小野寺 睦雄（内線9347）

第52回 日本口腔組織培養学会

詳しくは学会ホームページをご覧ください。
<http://jtcsdr52.wix.com/index>

日時：平成27年11月21日（土）8:30～17:00

場所：長井記念ホール

対象：全職員

連絡先：口腔内科 青田 桂子（内線5276）

